

青森県産 啓翁桜（ケイオウザクラ）

真冬に咲く「桜」の花で春を先取り

日本一の呼び声も高い弘前公園の桜。ソメイヨシノをはじめ、シダレ桜、八重桜などが園内を染め上げる…のは4月下旬…ところが、弘前では雪一面のこの1月にも、サクラが咲いているんです！

スッキリとスプレー状に伸びた枝に、淡いピンクの花が可憐な啓翁桜（ケイオウザクラ）。爽やかな香りで、春の華やいだ雰囲気演出してくれると、フラワーアレンジなどに人気の枝花です。サクラのまち弘前から、一足早い春の贈りものです。



啓翁桜をたっぷり楽しむために…[ポイントその1：飾る場所]

✿ 玄関先に飾る場合は

1. 花瓶の水を10日に一回は替えてください。
2. 桜に10日に1回は霧吹きで水を吹いてあげてください。

✿ 暖かい部屋に飾る場合は

1. 花瓶の水を5日に一回は替えてください。
2. 部屋が暖かいと桜のつぼみが乾き過ぎるので、2日に1回は霧吹きで水を吹いてあげてください。

啓翁桜をたっぷり楽しむために…[ポイントその2：花が咲き終わったら]

✿ 花が終わったら

花びらを摘み取ってください。そのあとの若葉も十分楽しめます。桜の散った後の葉桜の、風情たっぷりの味わい深い趣もぜひお楽しみください。（和室はもちろん、洋室に飾ってもモダンな雰囲気ですてきですよ！）



どうして真冬の弘前で？

JAつがる弘前では、りんごが主産地である津軽地域での冬期の換金作物（※）として、1993(平成5年)から啓翁桜栽培への取り組みを始めました。りんごの収穫作業が終わった12月中頃、休耕田やリンゴ樹伐採跡などで露地栽培したケイオウザクラを促成室に入れ、約二十日間にわたって温度や散水、照明などを管理し、開花直前になったところで出荷しています。他県産地と比べ青森県は気温が低いことから、開花に必要な休眠打破時期が早く、花のピンク色も濃く仕上がります。

※換金作物＝市場に出すことを目的にして生産され、迅速に販売可能な作物のこと。